

鉄道最前線 ▶ 鉄道会社に直撃インタビュー

欧洲「鉄道バス」、1週間で何本の列車に乗れる？

高速列車や夜行を駆使して世界遺産を巡る

次ページ »

久野 知美：女子鉄アナウンサー

2020/02/22 5:00

シェア 264 ツイート 一覧 B! 3 メール コメント 0 印刷



列車で欧洲を巡った久野知美アナウンサー（写真：ホリプロ）

早いもので2020年も1カ月が過ぎましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？ 今回は、いつもの「鉄道会社に突撃インタビュー」の番外編として、海外の鉄道に突撃（！？）乗車記録をお届けいたします！

というのも、昨年創立60周年を迎えたユーレイルグループが便利な欧洲乗り放題バス「ユーレイルバス」の約30%大幅値引きを行ったのです！ これは足を運ばないといけない！ということで、ユーレイルグループGIE、ドイツ観光局、スイス政府観光局、フランス観光開発機構の協力を得て、イタリア、ドイツ、スイス、フランスの4カ国・9都市を列車で巡ってきました。

海外の鉄道旅というと「難しい」「よくわからない」と思われている方が多いかもしれません。実際、私の鉄道ファン仲間の間でも、海外鉄道を定期的にされている方は少ない傾向にあるように感じます。ですが、せっかく1度きりの人生。一生に一度はユーレイルバスを使った鉄道三昧の欧洲旅に出でいただきたい！ アジアやアメリカを鉄道で巡るより、うんとハードルを低く抑えて旅に出られるのが“ユーレイルバス”的なのです。

鉄道で欧洲を巡るメリットは？

鉄道で欧洲を巡るメリットは、飛行機搭乗前の準備時間などが必要ないため時間を有効活用でき、小さな都市間を細切れに移動できること。ふらっと気になった街、駅に降りることができるので“いきあたりバッ旅”が可能です。とくに、ヨーロッパ旅のリピーターこそ使いこなせると楽しいので、シニアの旅におすすめです！ また、食堂車などで旅人同士の親交が深まることも。列車の旅を通じた出会いで世界が広がるのも魅力です。

今回使用した切符は「ユーレイルグローバルパス」。価格は大人・1等車用が531ユーロ（約6万4000円）で、2ヶ月の間、任意の10日間まで欧洲の31カ国が乗り放題です。

【ユーレイルバス】

- 2等車用や、学生人気の高いユースパス（23%割引、27歳まで対象）・シニアパス（10%割引、60歳以上対象）、好きな1カ国のみを選択するワンカントリーパスも発売
- いずれも第三セクターも含めた広域の乗り放題バスとなります（基本的に地下鉄は対象外）、寝台車など列車により別途追加料金や事前予約が必要な場合があります

それでは、そんな魅力たっぷりのヨーロッパ鉄道旅に出発進行です!!

今回の旅のスタートは、イタリア・ローマから。地下鉄を活用して世界遺産を巡ります（地下鉄は基本的にユーレイルバスの対象区間外となります）。1日乗車券は、24時間乗り放題で7ユーロ。1回の乗車が1.5ユーロとなるので、5回乗ると元が取れる計算になります。

宿泊先のローマ・テルミニ駅からオッタピアーノ駅へ。まずは世界遺産・バチカン市国にあるバチカンミュージアムを観光します！ 年中混雑していることで有名な当館へは、事前のネット予約が必須。優先入場チケット「Tiqets」を使えば、行列に並ばずともスムーズな入場が可能です。

バチカンミュージアムには、歴代の教皇たちにより500年以上かけて集められたコレクションが展示されています。中でもとくに有名なのが、ミケランジェロの『最後の審判』で知られるシスティーナ礼拝堂と『アテネの学堂』のあるラファエロの間。作品を前にすると、その迫力に飲み込まれてしまいそう。数多ある作品の中でも、ひときわ目を惹き多くの方がしばらく足を止めているのが印象的でした。

続いてはコロッセオへ。ローマ時代に死闘が行われたことでも有名なコロッセオ。1980年に“ローマ歴史地区、教皇領とサン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ大聖堂”としてユネスコ世界遺産に登録され、ほかにもフォロ・ロマーノやコンスタンティヌス凱旋門などの古代ローマ時代の建物が含まれている複合遺産です。

「ローマは1日にしてならず」と言われた大帝国時代の栄光をそのまま現代でも感じられる貴重な一角。古代遺産好きなら、丸1日から2日は時間をとって巡りたい広大な歴史的遺産です。

いよいよユーレイルバスで列車に！

とはいっても、鉄道好きとしてはメインディッシュの1つが、ユーレイルバスを使った大移動！ 「すべての道はローマへ通じる」なんて言いながら、後ろ髪を引かれる思いを振り切って次の目的地を目指します。

ローマ・テルミニ駅からはイタリア版の新幹線の一種「フレッチャロッサ（赤い矢号）」に揺られてフィレンツェS.M.N.（サンタ・マリア・ノヴェッラ）駅へ。

ここで、ユーレイルバスを使う際の注意点を。乗る前には、必ず日付を書くのを忘れずに！ 記載がないと、不正乗車とみなされ罰金を取られてしまいます。また、夜行列車に乗車する際は日をまたいでも1日分のカウントでOKです（「青春18きっぷ」だと2日分必要になるところですね）。別途寝台券は必要です。



イタリアの高速列車「フレッチャロッサ（赤い矢）」ETR500（写真：ホリプロ）

欧洲鉄道旅で気になることの1つに運行時刻の正確性がありますが、これまでの海外鉄道旅で得た経験則から、イタリア・フランス・スイス・ドイツなど高速鉄道網の発達している国は（細かなダイヤ乱れが数分～10分程度あるものの）、有事や車両故障があった際を除いて大幅な遅延は減少傾向にあり、ここ数年は比較的安定していると思われます。

この日は、出発予定の15時22分から遅れることわずか3分。フィレンツェS.M.N.駅への到着時には定時運行に回復していました！

今回の宿は、寝台列車「ナイトジェット」。出発する21時55分まで駅前散策ののち、乗車！ 今回宿泊するのは2人用個室寝台のシングルユース。2段式の折りたたみ式ベッドは欧米仕様で広々としています。個室ごとに洗面台が付いているうえに、共用シャワーもあるのがうれしい！ ユーレイルバスと、事前予約した寝台チケット（ミュンヘン中央駅まで124ユーロ）の検札と朝食の予約を終えて眠りにつきます。



フィレンツェS.M.N.駅に停車中の「ナイトジェット」（写真：ホリプロ）

夜行列車で迎える朝

翌朝は、少し早起きしてベッドを椅子に転換し、朝食をいただきながら車窓も味わいます。これぞ、寝台列車フリークにとって至福のとき……！

いつまでも乗っていたい気持ちを抑えながらミュンヘン中央駅で下車。「DB」ことドイツ鉄道の地域間急行「RE（レギオナル・エクスプレス）」でカウフボイレン駅へ。さらに、バイエルン地方鉄道に乗り換えフッセン駅まで北上します！

ドイツの主要都市・ミュンヘンからフッセンへは、トータル2時間ほどで到着。欧洲在住のシニアをメインに人気の観光地なのですが、それもそのはず。全長約366kmのロマンチック街道の終点でもある保養地で、そのハイライト、ノイシュヴァンシュタイン城への拠点としても知られています。



ロマンチック街道のハイライト、ノイシュヴァンシュタイン城（写真：ホリプロ）

ノイシュヴァンシュタイン城

は、東京ディズニーリゾートのシンデレラ城のモデルにもなったことで有名です。世界遺産にこそ登録されていませんが、バイエルン王ルードヴィヒ2世がその生涯と巨額の建築費を投資して建てただけあり、大自然の中にたたずむ姿は一見の価値アリ。

ミュンヘンから鉄道なら往復約4時間でアクセスできるため、日帰り観光も人気ではありますが、のどかな中世の街並みをかみしめるべく宿泊込みでの滞在がオススメ。われわれも例に漏れず、カラフルなハウスホテルに1泊としましょう。

翌日は終日、移動のため国境を越えつつ鉄路を乗り継ぎます。まずはフッセン駅を朝10時5分に出発。バイエルン地方鉄道に約1時間揺られ、カウフボイレン駅へ。ドイツ鉄道に乗り換え、地域間急行でリンダウ中央駅を目指します！

リンダウ中央駅からは、船にてブレゲンツ港へ約20分の船旅です。渡欧当時、偶然にも路線工事のタイミングだったため観光船をも味わうことになります（こちらはユーレイルバスの対象外となります）。エリアによってはフェリーも乗れる場合があります）。ブレゲンツ港からは「ÖBB」ことオーストリア連邦鉄道に乗車。ブレゲンツ駅経由でスイスのザンクト・マルグレーテン駅まで向かいます。

ここまで来ればあと一息。15時48分ザンクト・マルグレーテン駅発の「IR（インターレギオ）」こと準急・急行列車でクール駅へ。同じくIRに乗り継ぎ約2時間。17時58分にスイスはサン・モリッツ駅にようやく到達です！トータル約7時間強の鉄路＆船の乗り継ぎ旅。こんな日は少し町歩きを楽しんで、早めにホテルにチェックインするのが賢明です（笑）。

「氷河特急」の旅

ユーレイルパスを使った鉄道旅・4日目は、お待ちかね！ 世界中の鉄道ファンの羨望を集める「グレッシャー・エクスプレス」こと氷河特急の旅です。

運行ルートは、サン・モリッツ～クール、ツェルマット間。山々を抜け、牧草地を走り、街に出るまでの総運行距離270kmを約8時間かけて進みます。新緑の季節はもちろん、冬には雪山を縫うように走り、さまざまな表情を見せてくれます。最高標高はなんと2033m！ 最低標高との差が1400mもあるのでワイドな景色を堪能できます。

久野知美アナの欧州鉄道周遊ルポ



「氷河特急」の車窓
(写真：ホリプロ)

12/31



実は「氷河特急」は5年前にも乗車したことがあるのですが、昨年からエクセレンスクラスという1等車のさらに上をゆくクラスが誕生したのです。本来、ユーレイルパスで乗車できるのは1等車までとなります（今回は特別に取材をさせていただいたのですが、優雅なハイクラスの車両については、インタビューした模様を合わせて次の機会に独占ルポいたします！）。

沿線には2つの峠、91のトンネル、291もの橋があり見どころ盛りだくさん！ 中でも、とりわけ2008年に世界遺産登録されたサン・モリツからトゥージスまでのアルブラ線（ベルニナ・エクスプレスとの共通区間）は息をのむ美しさ。あわせていただく地産地消の食事も絶品で、生涯一度は乗車しておきたい豪華シニックトレインです。



「氷河特急」の最上位クラス「エクセレンスクラス」の室内
(写真: ホリプロ)

終着、ツェルマットに到着する頃には日が暮れ出していく、街はそろそろお休みモード。とはいっても、歩かずして大きな窓からさまざまな景色を味わうことができるので、終日スイスの山岳観光を堪能したのと同様の満足感が。シニアのファンが多いのも納得です。

TGVでモン・サン・ミッシェルへ

翌朝、ツェルマットを発ち、目指すは国境を越えフランスの誇る世界遺産「モン・サン・ミッシェル」です。

ツェルマット駅からフィスプ駅まで、普通列車で約1時間。「IC（インターチェンジ）」と称される都市間特急に乗り換えベルン中央駅へ。かの有名なフランスの高速列車TGVに乗り継ぎパリ・リヨン駅まで約4時間半。

地下鉄移動でパリ・モンパルナス駅を経由し（パリにはこのほかにも、パリ中央駅やパリ北駅など何種類ものパリ駅があるうえ、距離を有する場合も多いので注意！）、TGV大西洋線に乗り継ぎます。今日の鉄道の最終目的地はレンヌ駅。ここからは、時短のためバスでモン・サン・ミッシェル入りします。

全世界に1121件ある世界遺産の中でも、トップクラスの知名度を誇る「モン・サン・ミシェル」。フランスの北西部にあるモン・サン・ミシェル湾に浮かんでいる修道院の島で、「聖ミカエルの山」として崇められています。



夕暮れのモン・サン・ミシェル（写真：ホリプロ）

ベネディクト会の修道院が創建された10世紀以降、数世紀にわたり増改築が繰り返され、ロマネスク・ゴシック・ルネサンスと中世の多様な建築様式が混在しているのが特徴です。登録年は1979年と、世界遺産登録が初めて行われた年の翌年に当たります。

その歴史の長さに加え、満潮時のみ島へ渡ることができるという神秘性も魅力的。夕暮れ時までに到着して1泊すれば、日の入りと日の出の写真が撮影できるので、カメラをたしなむ方は日の入りの時間にもご留意を！

長きにわたるユーライバスの旅も、いよいよ佳境へ。モン・サン・ミシェルへはパリから日帰りで来られる方も多いですが、せっかくですのでゆったり宿泊・写真撮影を堪能！

島全体をガイドツアーにて見学したのち優雅に昼食をいただき、鉄道旅としては少し遅めの午後出発。14時41分発の「TER（テーウーエル）」こと来線急行列車でレンヌ駅へ向かいます。3度目のTGVに約1時間半揺られ、再びパリ・モンパルナス駅へ到着です。



モン・サン・ミシェル修道院の内部（写真：ホリプロ）

パリの夜を堪能した翌日は、いよいよ最終日。ユーライバスで巡る世界遺産の旅も、まもなく終着駅です。

まずはパリ・モンパルナス駅から列車で約20分、ヴェルサイユ・シャンティール駅へ。ヴェルサイユ宮殿にアクセスする前に街歩きをして事前学習！ 街のいたるところにフランス革命をはじめとした歴史的な痕跡が残されているため、一回りしてから足を運べば理解もより深まります。

広大さを実感できる列車の旅

ヴェルサイユ宮殿は、ご存じのとおり1661年にルイ14世により建設された王宮で、フランス・バロック様式の最高傑作と讃えられています。

幾何学模様を特徴とするフランス式庭園も、もちろん世界遺産。昨年リニューアルされたばかりのため人気も高く、世界各国から足を運ぶ観光客で大にぎわい。敷地自体も広大なため、じっくり見学するなら1日がかりになります。また、モン・サン・ミシェル同様に、登録年が1979年と極めて初期に認められた名遺産でもあります。

こうして、数ある世界遺産を結ぶようにユーレイルパスを駆使して鉄路を巡ってきましたが、その壮大な歴史をさかのぼったような不思議な感覚に陥ります。

ヨーロッパは、その国数の多さもあってリピート観光の多いエリアでもあります。テーマを持って旅に出る醍醐味をかみしめるのも、いいものですね。数年前に取得した世界遺産検定（実は2級を取得済み）で学んだ知識も旅に彩りを添えてくれました！ 何でも関心を持って学んでおくものです（笑）。



今回たどったルート。アプリで表示できる（写真：ユーレイルGIE）

さて、駆け足でお届けしましたが、1週間にわたるユーレイルバスの旅。お楽しみいただけましたでしょうか？

鉄道で巡る旅の1番の魅力は、ピンポイントでめぐる航空機の旅と比べ、土地の広大さを体感として“そのまま”感じられるところ。文化や歴史が入り組み、それぞれが影響を受け合い融合して成り立つ欧州だからこそ、味わえるこの独特の空気観。今回の旅のように、入国はイタリア、出国はフランスとアレンジするのも旅の自由度が高まるのでお勧めです。

56年ぶりの自国開催となる夏季オリンピック・パラリンピックを前に、ぜひ見識を広げるべく世界の鉄道旅へでかけてみてはいかがでしょうか？

（衣装：ディノス・セシール、EUROPEAN CULTURE）

→久野 知美さんの最新公開記事をメールで受け取る（著者フォロー）